ＮＰＯ法人

久喜の自然を愛する会

会報

ＮＯ３５　２０２１年１２月

会のモットー

１　足元から自然を学ぼう

２　現在（いま） ある自然を次の世代に残そう

★★活動の記録★★

ふれあいウオークわたらせ記念撮影

★キクイモ植え　　２０２１年３月２７日(土)東地区野草保護地

松本

晴天の下、キクイモ植えを行った。最近はキクイモを掘った時に、掘り残したキクイモが春になる芽を出し、成長するため、特にキクイモを種付けすることはしていません。

今年は、現在キクイモを栽培している隣の土地を借りることが出来たため、その土地に種付けを行った。キクイモ掘りを久喜広報で募ると、すぐに定員に達する程人気があります。今年はキクイモ掘り参加者に昨年より、沢山配ることが出来ると思い、作業に実が入りました。

★第１７回ＮＰＯ法人久喜の自然を愛する会総会

２０２１年４月１０日（土）　９時３０分～　太田集会所

藤浪代表理事挨拶

梅田市長挨拶

会場風景

松本

３月２２日に４都県に発出されていた緊急事態宣言が解除され、今年の総会は太田集会所で開催することが出来ました。

総会は宮川理事の開会の言葉から始まり、宮川理事の司会により進められました。

藤浪代表理事から、次の挨拶がありました。

１６年前の６月中旬、野草の名前を覚えるのを目的として、中土手で観察会を行い、久喜自然観察クラブが発足した。１０年続けようと話し合い頑張り、現在に至っています。昨年から続くコロナ禍で行事も殆ど出来ず、会員も少し減りました。

公務で多忙の中、名誉会員の梅田市長と井上市議に出席を頂きました。

○　梅田市長挨拶

ワクチン接種を５月中旬から毎日アリーナで始めます。先ずは８５才以上からです。２～３月は若い人の感染が多かったので、行動範囲を狭めて欲しいと思います。

議長には恒例により藤浪代表理事が選出され、議事録署名人は柏木理事と羽賀理事が選出されました。議題に沿って以下の報告が行われました。

斉藤理事から事業報告、平尾理事から会計報告がなされた後に、山谷監査から会計監査報告が行われました。

次年度の理事は羽賀理事は退任され、他の理事は、任期２年目のため引き続き任命された。活動計画が斉藤理事から説明され、活動予算の説明は平尾理事から行われました。

その他の項目として、今年度のゆうゆうプラザの実施状況を宮川理事、学校ビオトープ活動状況が柏木理事から報告さました。活動計画スケジュール表は松本理事から説明がされ、藤浪代表理事理事から会員住所録、会員連絡網の説明がありました。

最後に、全ての議題が了承され、嶋田理事の閉会の言葉で無事閉会となりました。

★野草観察ふれあいウォーク「渡良瀬」　　２０２１年５月１６日(土)

観察風景

ノダイオウ

アマドコロ

チョウジソウ

ノヂシャ

ノウルシ

エゾタンポポ

マナズルテンナンショウ

宮川

開催に際しては、コロナ禍であり一般参加者を含めた参加者数を心配したが、広大な渡良瀬の地での催しであり、「ふれあいウオーク」は会の精神「自然とふれあい・人とふれあう」行事である事。一昨年の９月２８日に実施した「ふれあいウオーク南栗橋」以来の久しいことで、４月の理事協議会で強い決意を持ち決定した。

５月１６日（日）の当日です。会員は１１台・一般参加者は４台の車に分乗し時刻前に全員集合。参加者一同、渡良瀬の雄大な自然を目の当たりにし、８ヶ月にぶりに元気な会員との顔合わせが実現した喜び一杯の様子でした。１０時キッカリ、此のたび用意した「ＮＰＯ法人久喜の自然を愛する会」のフラッグを先頭に、ふれあいウオークスのタートでした。藤浪代表理事（野草研究家）の説明を受け、現地で調達した『渡良瀬遊水地の植物図鑑』を見ながら熱の入った２時間でした。珍しい野草では、ムラサキサギゴケ・アマドコロ・マイズルテンナンショウ・トネハナヤスリが、樹木ではイチョウ・オニグルミ・クワ等々多数。渡良瀬の広さは東京山手線の半分と大きく、自然環境はラムサール条約で守られていて野草・鳥・昆虫・魚類が多く存在、自然を愛でる者にとっては格好の人気ある場所となっている。又、渡良瀬遊水地の一帯は、明治維新後の工業化に伴う鉱山開発から、鉱毒の影響を受け旧谷中村移住等社会問題があり日本歴史の一端を伺い知る場所でもあり、人の営みと自然との関係で興味が尽きないウオークであった。１２時近くに小雨がパラツク場面があったが、一同笑顔で満足感を得て予定通り解散となった。

「心豊かな人生は、人との繋がりと自然との繋がりを　大切にする事」と思っていますが、此のたびの「渡良瀬ふれあいウオーク」はそのことを象徴する行事となった様に思います。

ありがとうございました。

★吉羽天神野草保護観察会　　２０２１年5月３０日(日)

吉羽天満宮で記念撮影

吉羽天満宮付近で野草観察

保護地で野草観察

コガネグモ（黄金蜘蛛）

★中土手野草保護観察会　　２０２１年７月４日(日)

記念撮影

会田

中土手は土木事務所による作業で保護地以外はきれいに除草されていました。集合場所備前堀橋に集まったのは６人全員レインコート、マスク、長靴、軍手の完全武装です。梅雨前線の影響で連日の雨降り、時間前のやや霧雨状態が小雨となり作業は無理と判断、観察だけになりました。ヤブカンゾウは保護地２面とも丁度見ごろの時期を迎えオレンジ色の八重の花を見事に咲かせていましたが西側は一部枯れ、色があせた株も少なくありませんでした。

チガヤは地下茎で増殖する野草ですが、本年もこのチガヤが増えヤブカンゾウに大きく影響を与えていました。ウマノスズクサは花がいくつか見られ、ジャコウアゲハの産卵は無かったようです。ワレモコウは株立ちが良く秋が楽しみです。オニユリは例年より小株「むかごで増えないのかしら」との声あり、アキカラマツ他を観察さらにたんぼの畔沿いのヌマトラノオは除草剤の影響かその姿はありませんでした。本日は傘をさしながら野草観察をとうしてコミュニテイの場になったようです。参加者の写真撮影ののち散会。

中土手は備前堀川と備前前掘川の挟まり隔絶された自然環境のはずですが、一部アレチウリ、オオバコ、セイヨウタンポポ、カタバミ等が見られ外部からの侵入が見られます。

★さいたま市「見沼自然公園」等散策　　２０２１年１０月２７日(水)

見沼代用水を開発した井澤弥惣兵衛為永氏像の前で記念撮影

観察風景

サクラタデ

ヒカゲイノコズチ

キツネノマゴ

大きなキノコ

サクラ

應義塾大学薬学部付属薬用植物園

これも薬になるのですね

斉藤

曇天下「見沼自然公園」に隣接すバス停から近い「さぎ山記念公園」内の駐車場に参加者 25 名の皆さんは 10 時までに集合しました。先ず野草研究家の藤浪代表理事からの挨拶と本日散策のコース等予定の説明後出発しました。

最初に見学しました「さぎ山記念館」には 3 羽の見事なくちばしの長い鷺の剥製（チョウダイサギ、チュウサギ、コサギ）と写真パネルや説明文書が展示されていましたが、由来は 250 年の歴史を持つ鷺の集団営巣地だった「野田のさぎ山」を記念して作られたようです。特別天然記念物に指定された鷺は、最盛期だった 1957 年には、ヒナを含め約 3 万羽もが棲息していたようですが、1965 年頃から周辺環境の変化などでその数が激減し、1984 年には国の特別天然記念物の指定も解除となったようです。

次にふれあいウオークルートは「見沼自然公園」を北側から左回りしましたが、見沼代用水東縁桜並木に沿って遊歩道が整備されており、また線状に雑木林が連なって斜面林というように様々な自然環境が残されているので、今なおいろいろな動植物が生息いるとのことです。ここの桜回廊は日本一とのこと、花見客で賑わっているようで、今後是非お花見しながら散策できると良いと思います。

公園の広さですが３３千坪で 1994 年に開設され加田屋川沿いに位置し、水辺の散策からメダカなどの水生生物やカルガモ・キジなどの野鳥観察を楽しめることができ、渡り鳥の飛来もあるようで、他に広い芝生広場とゲートボール場があります。

散策は上記の遊歩道を進みましたが、藤浪代表理事の案内からアキニレ、メタセコイヤ、コナラおよびラクウショウ（落羽松）等の木の説明があり、改めてその生態に触れることができました。

その後、芝生広場には見沼の自然を凝視している見沼代用水を作った井沢弥惣兵衛為永を称える銅像が建っています。功績は 1727 年八代将軍徳川吉宗の命を受け、利根川から取水する上記の見沼代用水を開削し、現在にも続く見沼たんぼが形成されたため治水機能が保持され、都市用水・農業用水として東京・埼玉へ水を供給しているとのことです。我々はこの銅像前で記念集合写真を撮り再出発しました。

この後、遊歩道を野草など観察しつつ、園内南側の自然観察園周辺にてゆったり昼食休憩を取りました。途中の修景池や該観察園の池では、桃色の睡蓮の花や野鳥のカルガモを多く観察でき楽しむことができました。

次の予定訪問のため先ず駐車場に戻り、全員車に分乗して近くの慶應義塾大学薬学部附属薬用植物園（浦和共立キャンパス）に 13 時頃到着した。スタッフの施設職員大用氏より挨拶があり、薬用園案内が配布資料に沿って始まりました。なお、ここの入園料は無料です。保有標本園は 1966 年に開園し、現在は植物数約 700 種類が広大な露地圃場と温室にて維持保育されているようです。見学は先ず県道沿いの北側標本園に入り、次に見学した南側標本園も含め大変多くの品種が保有されていましたが、時期的に花は少なかったです。この後、道路向い側の温室にて各種植物の案内方説明も頂きました。

以上で今回の充実した散策方見学会は全てを終え、14 時頃に解散となりました。

《見沼自然公園散策路での花のついた野草》　（藤浪代表理事の配布資料による）

ハキダメギク、チヂミグサ、アオミズ、ミズヒキ、キツネノマゴ、ミゾソバ、オオオナモミ、ウシハコベ、エノキグサ、ジュズダマ、ススキ、セイタカアワダチソウ、ヌカキビ、チカラシバ

★キクイモ掘り　　２０２１年１２月１２日(日)

松本

今年から､キクイモ掘りに参加された方に多くのキクイモをお持ち帰る事を願って畑を増やしました。久喜広報で募集した一般の方は吉羽天満宮に集合し、イクイモが栽培されている会の東地区保護地に移動。参加者は、一般の方が１５組２５名（小さな子供４名を含む）と会員１５名の総勢４０名でした。

畑に残っている枯れたキクイモの茎の伐採は集合時間前に行いました。太い茎は３センチほどあり、

高さは３メートルに達します。

藤浪代表理事の挨拶と説明後、キクイモ掘りがスタートしました。天気は良好で絶好のキクイモ掘り日和です。キクイモ掘りは、最初にスコップで大まかに土を掘り起こした後に、小さなシャベル等で、イモを取り出します。冬眠したカエルが２匹出てきました。

掘ったキクイモは来年の種にする分を残し、30 等分し、参加者が均等に分けた。家に帰り自分の分を測ったら、6.3 kgあったので、今回の収穫は200 kgを少し越えていたと思われます。

収穫したキクイモの前で記念撮影

★デンジソウ保護活動

２０２１年5月２１日(金)

２０２１年7月１６日(金)

２０２１年１１月１９日(金)

嶋田

絶滅が懸念される野草のデンジソウは、埼玉県希少野生植物に指定され、久喜市鷲宮の宝泉寺池一帯が県内唯一の自生地です。

自生地保護のための萱等の雑草刈り活動は、当会の年間活動計画として２０１８年から年３回実施しています。

今年も昨年に引き続きコロナ禍のなか、５月２２日、７月１７日及び１１月２０日に雑草刈りを行いました。

以下は今年の活動状況です。

○３月２５日（木）　自生地内の草取り及び進入路への除草剤散布
　９時～１０時　参加者２名

○３月３０日（火）　自生地内の草取り及び進入路の整備（葛ツルの除去等）
　１５時～１６時３０分　参加者２名

○５月２１日（金）　第一回デンジソウ自生地保護活動
　９時～１０時３０分　参加者９名（全員会員）
　埼東よみうりの内藤記者の取材あり　６月１８日（金）記事掲載

○６月１６日（水）　保護地区画整備用杭打ち棒及びトラロープの購入

○６月　２日（月）　自生地内の草取り及び杭打ち・トラロープ張り
　９時～１０時３０分　参加者２名

○７月１６日（金）　第二回デンジソウ自生地保護活動
　９時～１０時３０分　参加者１３名（久喜市職員２名、一般参加１名、会員１０名）

○１０月２０日（水）進入路の整備（雑木の伐採等）
　９時～１０時３０分　参加者４名

○１１月１５日（月）進入路の整備（雑木の伐採及び進入路への階段設置）
　９時～１１時　参加者２名

○１１月１９日（金）第三回デンジソウ自生地保護活動
　９時～１０時３０分
　参加者１５名（埼玉県職員１名、久喜市職員２名、一般参加１名、会員１１名）

年々自生面積が減少していたデンジソウは、当会が保護活動を積極的に行って来たことにより現在回復状態となりました。

今後、自生地脇の道路工事及び住宅建設に伴いデンジソウの水源の確保が心配されますが、来年は多くの会員参加のもとデンジソウ自生面積が広がることを期待してます。

★放課後子供教室

宮川

★太田小ビオトープ活動状況

柏木

最小の自然の森：ビオトープ

ビオトープ再生活動は誰が始めたのでしょうかー・―・久喜の自然を愛する会藤浪事理事です。地域の自然が公共事業等って開発が進むなか、自生地の野草が絶滅してゆくため、野草保護活動と野草を残してゆくために、太田っ子ビオトープの仲に移植されました。オカトラノオ、オグルマ、センニンソウ、カニクサ、ウマノスズクサ、ヌマトラノオ、オニユリです。池の中には、クロメダカ、ヌマエビ、タニシ、ドジョウ、シマドジョウ、スジエビ、ムツゴ（魚）、ヤマベ（魚）、タナゴ、サワガニ、ヌマガエル、アマガエルがいます。

草地には昆虫類（コクワガタ）等が生息しております。

現在は、先生世知、ＰＴＡ、ビオトープサポートの皆さんと一緒に管理活動しております。ビオトープの管理、観察をすることによって生態体の大切さに関心を持ってついて頂ければサポートのやりがいが湧いてきます。

★野草保護活動

東　側

４月６名

５月５名

６月６名

西　側

４月６名

５月５名

６月４名

７月７名

７月５名

８月７名

８月５名

９月８名

９月６名

１０月８名

１０月６名

令和３年度野草の保護活動中土手の報告

４月２５日（日）　　嶋田夫妻・会田・芳賀・宮城・宮川の６名
　好天下の草刈　ヤブカンゾウ元気　ウマノスズクサ、ワレモコウも元気育ち
　２週間前に柏木・嶋田・会田の３名で杭打ち実施済みで環境良し
５月２３日（日）　　嶋田夫妻・会田・芳賀・宮川の５名
　曇天下での草刈　１ヶ月前の草刈活動の成果あり、ヤブカンゾウ、
　ワレモコウ、オニユリも元気に育っていた
６月２７日（日）　嶋田夫妻・会田・宮川の４名
　長年の保護活動の成果と思うが、ヤブカンゾウが７部咲きで７月４日の中土手ウオーク

は見ごろと思う

7月２５日（日）　嶋田夫妻・会田・平尾・宮川の５名

川上の保護地のチガヤ退治を目指し、保護地の半分を草刈機をいれ試し刈りの実験

8月２２日（日）　嶋田夫妻・会田・芳賀・宮川の５名

猛暑を避けるため７時から作業開始、汗びっしょり働き快適だった

9月２６日（日）　嶋田・会田・芳賀・平尾・宮川の５名

クズ、アレチウリ、アメリカフーロが繁茂していたがヤブカンゾウ健在でホットする

１０月２４日（日）嶋田夫妻・会田・芳賀・平尾・宮川の６名

最高の草刈日よりで今年度最後の保護活動でした。幸い土手は県土木事務所が草刈済みであり、６名で保護区域内のチガヤを中心とした草の草抜きを徹底した

《 関連記事 》

＜埼東よみうり２０２１．２．１９＞　自生地を守る

＜埼東よみうり２０２１．６．１８＞　デンジソウを守れ

★新入会員情報

42　芹沢　雄三
43　篠崎　春彦
以上２名が我々の仲間に新たに加入されました。よろしくお願いします。

現在会員数　４３名

★今後の日程

七草粥の会　　２０２２年1月７日（金）

★編集後記

昨年、新コロナ禍で延期された東京オリンピクは首都圏に７月 12 日から続いている緊急事態宣言下の７月 23 日から 17 日間、パラリンピクリンピクは８月 24 日から 13 日間、無観客で実施された。

開催前は開催の是非が問われていたが、競技が始まると国民はアスリート達の活躍に一喜一憂し、多くの感動をうけました。日本のメダル獲得数は、58 個（金 27 個、銀 14 個、銅 17 個）過去最多を大幅に更新した。又パラリンピクはメダル 51 個（金 13 個、銀 15 個、銅 23 個）で史上２番目でした。

日本の新コロナの新規感染者は８月 20 日に 25,876 人のピークに達した。管首相は９月３に新コロナの対応に専念したいとして首相退陣を表明。その後、新規感染者は急激に減りだし、９月６日に 8､226 人と１万人を割り、10 月３日には、968 人と千人を割った。さらに、11 月 15 日は 79 人と 100 人を割った。

一週間平均の新規感染者を見ると、11 月 28 日が 96 人と最低で、その後、徐々に増え 12 月 15 日現在で 137 人となっています。

12 月に入り、南アフリカで発見され発表された変異型新コロナウイルスは変異株「オミクロン株」と命名され、「デルタ株」から置き替えつつあります。

12 月９日に気象庁より、「現在もラニーニャ現象が続いている。」の発表あり。ラニーニャ現象とは太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて海面水温が平年より低い状態が続く現象をいい、この現象が続いている年の気温は寒くなると言われています。

会報３５号は宮川と松本が編集しました。今後、皆様へ原稿のお願いしますので、よろしくお願い致します。

ＮＰＯ法人久喜の自然を愛する会会報　ＮＯ３５
２０２１年１２月発行
発行　特定非営利活動法人久喜の自然を愛する会
発行人　藤浪　康義
編集人　宮川　俊治
松本　春勇